理事会資料　2015 04 11

はじめに

銀のかささぎは、虐待を受けて保護され、児童養護施設等で暮らす子どもたちへの学習支援を中心に活動しています。 施設の子どもたちは、もともと家庭で十分な学習環境がなかったり、虐待による一時保護の間は学校への通学が認められなかったりして、学力の低下が懸念されています。 そこで、私たちはICT教育を取り入れ、個人にあった学習支援を行っています。ICTを用いた学習支援をすることにより、すべての子どもたちへ十分な教育を届け、教育格差を是正したい、と願っています。

• 基本理念：

「ITサポート 銀のかささぎ」の基本理念は、「不遇にあった子どもたちを学校や社会へ、そして明るい未来へ“つなぐ”」というものです。「かささぎ」は七夕伝説において、彦星と織姫星を“つなぐ”役割を果たしていますが、私たちは“銀”のiPadを用いて、そんな子どもたちを“つなぎ”たいという願いを込めて当団体の名前を付けました。2012年5月の発足当初、立ち上がったのは東大生を中心とした学生ボランティアでした。彼らは、児童虐待によってもたらされる格差問題に対して、自分たちにできることは何かを考え、学習支援を通して社会を少しでもよりよくしようと行動を起こしたのです。児童虐待・育児放棄問題の現場を目の当たりにすることで、そこにいる子どもたちに必要なものは何なのかを少しずつ理解できてきただけではなく、学生ボランティアのみなさんを含め私たちも気づかされたことがたくさんあります。専門分野に関わらず、今後の日本社会を担っていく若い世代の学生たちがこの問題に焦点を当て、直接自らの行動を通して関わっていくことで、明るい未来を作っていけるような多様な人材に育っていくことを期待しています。

• 沿革

2012年4月　ボランティアグループ発足

2012年7月　東京児童相談所一時保護所で学習支援活動を始める

2013年5月　非営利活動法人登記

2014年4月　長野と東京の児童福祉施設での学習サポートをはじめる

2015年3月　延445人のサポート達成

「かささぎ」サポートモデル：

【iPad教育メソッド】

　一時保護所の1年間の支援活動で、保護所にいる子どもたちに対してiPadを用いた最適な学習法を開発しました。これは紙媒体のみを用いた従来の学習方法の弱点をカバーし、子どもたちの学習意欲をより引き出しやすくしたものです。集中力の持続や学習成果の観点からもiPadを用いた学習法の方がよいということは、データによって立証されています。しかしここで求めているのは、成績でも点数でもありません。ただ、学校に戻った時に勉強が苦痛ではないと思ってもらえるように、最低限の知識を一緒に勉強しています。電子媒体の使用は人と人とのコミュニケーションが希薄になると言われていますが、私たちが行っている支援では、学生ボランティアと子どもたちが向かい合って、お互いに交流しながら楽しく勉強しています。ここでの先生はあくまでも学生ボランティアのみなさまで、iPadは単なる道具にすぎないのです。iPadがいかに優れていようと、人とのつながりを大事にしたいからこそ、私たちはこの活動を継続していかなければなりません。

• 銀のかささぎの由来

かささぎは七夕伝説において、彦星と織姫星を“つなぐ”役割を果たしていますが、私たちは“銀”のタブレットを用いて、そんな子どもたちを“つなぎ”たいという願いを込めて当団体の名前を付けました。 中国の七夕伝説では、織姫と彦星を七夕の日に会わせるため、たくさんのかささぎが翼を連ねて橋を作ったとされます。 この伝説の中でかささぎは、彦星と織姫星を“つなぐ”という役割をと持っています。 私たちの活動は、子どもたちを学校や社会へと“つなぐ”ものであり、明るい未来へ“つなぐ”ものだと思っています。 ひとりひとりのちからは微力でも、私たちと同じ志をもった人達が集まって、今の社会の矛盾を子どもたちが背負わないようにより良い未来へつなげていけたらいい、そんな願いでのかささぎを選びました。 銀色とは、私たちのもう一つの使命である教育の情報化です。 日本の教育現場での情報化の遅れは、他の分野に比べて顕著です。銀色は、21世紀に生きる子どもたちにとって必須であろうICT（情報技術）の教育を表しています。

※現在使っているチャッチコピー

ながのまちづくりで使っているもの

「すべての子どもたちへ十分な教育と愛をとどけたい」

雑誌の取材やロゴに使ったもの

「できる喜びを届けたい！」